

マハラジャ・インスピレーション

特別展「インド サリーの世界」出展作品(標本番号H229101~2) デザイン/リトゥ・セクスリア 幅120cm 長さ536cm

杉本 良男

先端人類科学研究部

デザイナーのリトゥ・セクスリア (Ritu Sekaria) は、ラージャスターン州のいわゆるマハラジャの家系に生まれ、幼少のころから屋敷にあった豪華な衣装に囲まれて育った。三〇年以上前から婚礼衣装のデザインを手がけていた母親から手ほどきを受けた。その後ロンドンのファッション学校 (London School of Fashion) で学び、

マハラジャやラージャスターンの衣装の伝統を現代によみがえらせた。女性用の豪華な婚礼衣装やサリー、さらにはレーンガー (スカート) とチヨリー (ブラウス) の組み合わせ、男性用のクルターやシエルワニー、アチカン (上着) などで、大胆なモードをつぎつぎと世に送り込んでいる。

表紙のサリーは、薄い緑のシ



本格的にデザイナーの道に入った。

現在はムンバイを拠点にして活動を続け、ミッタル、ビルラー、キルロースカルなどのインドの実業家の家族や、ラージャスターン州ジャイプールのマハラジャ家の王女、若手女優のエンジャ・デオル (かつてのスター女優ヘーマー・マリーニの娘) などの顧客をもつ。その経歴を生かして、

ルク地に、金銀糸やガラスなどの刺繍がほどこされている。とくにバツル (サリーの端の部分) は、透け感がうまく生かされており、美しさをきわだたせている。またチヨリーもサリーにあわせてデザインされており、薄手のシルク・クレープ (ちりめん) 地にはやはり金銀糸やガラス、スパンコールなどで華やかに装飾されている。